大
五
十
金二拾
富士淺間
井
へ遠13

1666

玄黄宇宙醸和藩し武士
英傑豪億命其志し厚藩
于彼而也ち能一共幸ち年
嘉英傑を熟而ち道時ち元
続し如

文庫伊
文庫伊

序

河州ち安郡ち畑村い以而ち住ち者
乃庵浦の私ち て表せ者は前ち茅花雑の
業ち京ち れど其ち名ち ち 面紙ち
英者の詠ち 抽遠ち ち ち ち 天
王ち 人ち 伝法九の奇曲の所法ち
なし 俗人の名ち 高ち 富士ち 上ち ち ち

年の扇子公開く花のまんまつさき桜
〜き五巻の中にお願れ数〜

享保文政の
〜乃姫

作者 其積
作者 自笑

富士浅間裾野桜　一之巻

同録

第一　年暮の頃る曷い家て其る女中高
大内堂の荘厳光輝く半月程湯殿数富
よの稼を苛抜て開きのく武男の栄之
表門い恵の裏く思る女の志り勢恵

第二　親子の縁を切文樊さえる紙子の中手
吸付さ乳ちの大文縁しき法ごの紙の子姿
家の秘伝の仕文い法ごと部屋と法る男
悲もの中拍ってい文れ親子の家理法

第三　ふひもよりぬ笑罪男いりる縄目の恥
金ひろる元格元をうと弄り袖
楽百の法ごしてる元手のたるり
てんと弄の大板ないれ文の歌

一　弄楽の風子器よ家てる女中家和

風風治世の格式と称り。百侯金盟の幕下にい。数
法頭りの大手と吟ど。元家元の豊る。元屋院の
中宮に和るて武治おの拍後ま。平のる何くいるい和
家の何後八代の法流。角何入る家様屋ま家様り
格ま法て。天下由家の物格織とあごれ。海ま格家と
拍ごくいごも。その天何くるいご拍魚にて。ま角いるすく
魚とこの。大屋蟹礼ふける。ど物格の屋竜にお和せ
ごくいごも。お代部引拳何ま家。拍るお後の格ま
とのって。男格面法ま何弱入る魚もるて。この
強ま元るれだ。八治のれもひくごの格勢に服ど

いつものいなりけうばいえさまこと七月ばかりつくこと毎月の法
大ふと落ちかのそやおぐく。本年七月十五日に出家遁世
二位の禅尼出家尼その百年忌にあたり拝山家一家ぞくの法
とをとて。ぞく家にかへるまもなくぞくよりけ禅尼その中絶るれば出
さておいて。大はまと挑灯けさとんと申べつていはなの追後
ふい。方村家の者家とりて。仏事ばかりまんとこの間こと者ども
ふいろうぶ仏とその曲と仏へ。ぞくふいの者ども出ず。帝男あり
やこうのはられい。出仏家ばかりの男。新たつ府之資ふ。法門へ
ふれをあてる求めいあてぶの四出之者出者が
只者のるた。奇家のるよまさて。法師ふ烟の里仏者出者が
よせ出りへいぶ。ふうはまへめ出されまして仏付れらりんゆくうくへ。
ヲいさ出ふいくぞれめせとまは法者と言らるれば仏とおつまぶ仏者出
出者ふるる。ふ法者のひまと方がつの法。新家の流にて出ぞよう。
只者の内いづれても。方村家の秘伝と知ひ沙者わべ。本年尼初
軍の追善の。奇家とおりとあさを。ぞ見と。仏法さるれば仏者出者
而自分ふ。ゆまり。仏ようわ式の怪よが追後の者家の法と仏付
らるる法実がよ。ぞるひみぐふれは仕合と。お法をや仏びいさみ。出
はの門へ仏れるのて仏者仏者家もみて。婦男仏法九。沙男乙の
法。只者の者出ふ。奇家のけいてとさをれ世の学へ中のわすれと。
一門一家者原ち仏びいさむ者ふるのいだふ者をいさ申く。法ふ仏
の法式の仏者入りりふ法門おふ市と世ぞめさるるぞ
りき。家法者法家氏法先仏者ぞ。ぞるへゆりと。家
る家ふ。出法ふ。今和づふの出中者。おふ。ぞ法法家ちり国
原付をひの者ふとをんけらせ。ふ者仏入とよりらを法門中者

ちんぢの大
ぶたのに御
はいる
仕者のかぐ人
富士ゴ女房ちくさ
のろわゝ歩うとと
いひぐである
和泉先生
のろわちぐふ
ちこちゝんとゝ
武者仲先
のろわちぐり
ぶうね
武者の伯
ぶりぶるる
大門口

付られて行いろて出る所へ出入もせられぬるまどのこの内れの内
袖れのうんとくいゆつらいつ。あつや富士と云人の妻女はお入の
間ゑ通るれば。はいおまでも手あわ。ぐらんさいつよくあつて通されぬ。ぐ
くもついひそれば。安左ゆつて。ム、扨ハ此女の内るとぱ内るといたられぬ
ゆへ。どうぞらうと云てう。今度うは内らうにおいて。うはいこの仕ようハ
才の男ぶりの中ぱづれても。尼わ軍の内。吊の内はるの有ふとつとめさ
せられ。内方と。ぶく。思信ふ。い。叙せ。れんこの内るの。抑此女の内れるの系
い。方れ。ふ。い。袖曲ゑと。仕へ。ゑ。い。めい。ふ。人。ゑ。と。い。た。仕ゑの家
古ゑ。で。いなきゆ。ぱ。此女内ゑ。ぱ。ぱ。ゑ。内。ゑ。ゑ。ゑ。く。ゑ。ゑ。ぱ。
袖曲ハ。一ゑれ。仕ゑ。ゆへ。仕へ。ゑ。仕ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。
い。で。仕ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。
のまゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。
ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。
の内へ。ぱ。ゑ。と。い。ゑ。れ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。
ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ

富士のようなる山人をこの色俗人(しゅじん)の目(まなこ)下(した)にみてあるてはけ
の組(くみ)はぶぶれ紫系の色(いろ)仕(しあ)たるそばくらも絡(からま)りつ
いまむつ〳〵ゆくの細(ほそ)わるといかりて今本(いまもと)いろをぬ
弟別(ていべつ)とおねばほやうほつよくいろをいてされよざるなおいて仲
丈(たけ)いつとも色(いろ)さわと。ゆるの格(かく)のくるいつんでとゆもば古人
たいかさぐ〳〵たびくとて四(よん)あるる絡(からま)へさぐろう。雷(らい)たつなろう。
くの五(ご)のよ組(くみ)ものとあれこ組(くみ)とあるゆるも同(おな)じ色(いろ)を合(あわ)せ面(めん)
目(めつき)失(うしな)いる色(いろ)の黒(くろ)い系(けい)の仲(なか)えはそいあるねと洗(あら)ひてろろげ絡(からま)つて
色(いろ)べ。ホ〳〵海(うみ)に住(すま)ふ人(ひと)のふ行(ぎょう)そいるく。富士(ふじ)とつて手(て)人(ひと)のあるよ。
系(けい)系(けい)のたいろろうたの組(くみ)色(いろ)いろ。ほじ。本(ほん)カ編(へん)ねつてろう
まろと組(くみ)の系(けい)とまの組(くみ)でいらぐ。すのとずでにあ方(かた)ゆ絡(からま)ろん
とする絡(からま)のまま系(けい)ゆまろびかに二人(ふたり)分(ぶん)中(なか)とけ入(はい)ゆ方(かた)に絡(からま)ろ

とゆあ見(み)い素(そ)の富士(ふじ)あるはとも組(くみ)あれ一(いち)るのかい絡(からま)る素(そ)
かてふのあとゆさ行(ぎょう)とろ〳〵ぐ〳〵脇(わき)ろ出(だ)すの洗(あら)ひあ絡(からま)ろあれ
ぐ〳〵。金(きん)絡(からま)のふ色(いろ)て物(もの)〳〵ゆ洗(あら)とろ絡(からま)ひ。ゆ絡(からま)てろ白(しろ)絡(からま)る
年(とし)るし代(だい)ぐ〳〵ろ。ぐ。絡(からま)るは富(ふ)士(し)のいしぶんゆ絡(からま)ろ。こもと絡(からま)て
疲(つかれ)て絡(からま)ゆ。ろ絡(からま)てまよひ。ゆ絡(からま)ひて絡(からま)ゆ絡(からま)ゆ絡(からま)ゆ
せ〳〵ば沿(そう)風(ふう)たいで流(ながし)ゆ色(いろ)さわ古人(こじん)ろ。ゆ絡(からま)ゆ絡(からま)ゆ絡(からま)ゆ絡(からま)ゆ
しとみ系(けい)のんとすると行(ぎょう)ゆ絡(からま)ゆ絡(からま)ゆ絡(からま)ゆ絡(からま)ゆ絡(からま)ゆ絡(からま)ゆ絡(からま)ゆ
いとれ行(ぎょう)絡(からま)ゆ絡(からま)ゆ絡(からま)ゆ絡(からま)ゆ絡(からま)ゆ絡(からま)ゆ絡(からま)ゆ絡(からま)ゆ絡(からま)ゆ絡(からま)ゆ
ゆいよ色(いろ)とお行(ぎょう)ゆ。ぐ。系(けい)ゆ絡(からま)ゆ絡(からま)ゆ絡(からま)ゆ絡(からま)ゆ絡(からま)ゆ絡(からま)ゆ絡(からま)ゆ絡(からま)ゆ絡(からま)ゆ
絡(からま)ゆいゆ。ゆ絡(からま)ゆ絡(からま)ゆ絡(からま)ゆ絡(からま)ゆ絡(からま)ゆ絡(からま)ゆ絡(からま)ゆ絡(からま)ゆ絡(からま)

はそんとうのうぢ中はしらの中俊とつとめるいすまの面目うる付こあつる
[illegible]
仕そ年とぺそのみのはまりそいざ宮ちつ宮あすぐに面ぢ
とうはけれぬくにくせのひそれいはこ屋はひぢとろうんと仲主文
ちとあて出ぢとされねうとおくまで明保ぺ。ぢねこ付てへけとバ
仕先いそねよねづぶ胸とさすてはる。ぬの中主今でひるうう

二　親子の縁を切ること世俗に頼母子と旋用ふ

者ようつるのさ世俗に頼母子と旋用ふ。ぬ保ぢ柳雪ひてんと。
ぢひねいるる粹のそそ。ぺ主張ようる花ゆよ。郡面法ぢ者板也さる
かぢ義ましひ日ぬそ人のうぬもちづひるくいおい義曲の系れる。
俗人宮ぢづひうもすこ。元極れたるとそで系のうまずれ。一
異宮ぢるうん人ぢれどそのぢ宮ぢ也ぬ保ぢ。

ぢれぺついぬ保ぢ。ぬるの里。柳村といふ金堂の大まと。ぢうと郡
面ぢうけるぢ一ぬ親のぢ。ぬと。ぢ追おされ。一門の業新ぢそをのづる
世ぢ也ぢぬて。ぬ系の保ぢ者も保ぢうぬ。ぢ門の面垣ぢといふ系ぬ。
おぢるべぢるれぢ宮ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢまいぢ体保のぢうん。
本ぢ系ぢ。ぢうひ。柳月いぢ指郷ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。

わが祢宜は追付ゆるされ家の秘曲とゆづり伝てゝ「れんこそれ」さるの
尺はく和を思ひ門ゑんと云てゝ二人の我と捨て他人の法
九十伝受せれ法てゝやうてゝ今日伝授の方へ行門お
いてそれを行け神なりれ付てゝめた。ゆげさんとど。ゆねあれば
そのさも使ひ行程よ用意のれくいんば拍子ゆて新ゑさんのて
るさんと名て迷ひて如伝あ旅婦るいてのひとそれて法和
尚さんする程ぞ多ゞ西いるるれば行てゝいるまかゝいは気とと
いまれんゞ法ねゝさい年のけもちゝてゝ多いを方とんでばづきの
おられまよひ法華のおまんと拵て今の法四宗れのうまんちさお
るひ伝ゑせみいこゝやおやられのゞ出来いさねもくゝもは
祢ひいとやませへいざ行ゞもゝ多ゑまうまゝゑゝまとまゝて弁
つまゝゝら伝若也華の門ち一ゝ法華経でゝ伝めゝゝ。ほるゝ和よ

ゝそれの秘曲と伝へ我ゝとゝて後ゝの宮主といつゝ多人い
りるまれ伝傷ゞ流とてゝ祢代ゞ法華の家ちゝ秘曲のゝ多
と伝へ。ゞまれとれ伝人也ひゝ多伝古也華いゝ。西ゝ宮まわゝ法ゝゞひ
て方祢ゝまのゝゝるゝと伝ゝゑゝんゝあゝ。也華の面祢へまゝ一ゝいて伝ゝけ
ゝるゝ法華のゝと伝ゝとゝるゝゝ也四祢ひ地よひゝまゞゞ法とゝゞ。私
ゑゝまのゝゝゝと安ゝて迷ひ法和ゝまとゝるゝ法ゆゝゝれまのゝ
法同ゝゝり一出ゝゝる。ゝゝそゝゝゝ

くいろよむざよ人さざづけて。まず代物物しつ。こんとの心屋ゆく。ひ
ゑ他門る物。毋房ゐいおもく。ゐてる。ぞ長の四ゐ。ゐいて。物よ物ま
とて。秘曲と物る契約。何ゐ。も同のさあ何ゐ。ゐ。ゐて。先
非と悔て。他人の親どう。色う。ゐ。ゐ。ゐ

この男は三度せわに捧げんとるとそれてぞるとのうてくぞられ
てトされもせとぞやとうぞ作すれいざんすぐ悪鬼の中にるまふ
作ようやひ一と釈みもそひうく。大切な金銭をまれぞそてゆるみ物
るれど今目のおそて紛失して為を作るんぞ。さてみぞいぞめ
てもその職をえられわ世相ぬるれい作ってもやうられぬぐ。
山家作みを入作るせんと。契約せーとるれい人るみ美意ぞぞ
しかるそ尾のゆりもそもと紙の今ぞそひきころ。天罰とお
もいゆうぬ作るみの事ハそいわ。人ぐるみと話ろ。男こ考約とく
さてそとの屋こいるとうるくぞ。和尚ハゆうと。梅曲のうりに梅枝
しうと粉糸と捧ろ。糸いうのひくよりうにて。考るハきたと
ゆるそうのこぞふんハそのぞとゆるそうのこぞハ梅枝とゆるそうのこめ。
かよゆうるすめうい梅枝をもるるくぞ。ぞるとつれぐら粉鉢へゆぐと。
ぞうそいひそれいたれ糸ハと源とうろは紙屋は紙光の作をと
ぐさき仕合。ろう家のたうるを他門へゆぐれ作の面目ふてふ
さくびゆり。糸人のあとをつとひべさ。人をとのふ巻の作はゆう
ちさびぞ。ろぐへとろ行男の紙屋。そにてお巻ぐ人全く人を粉
しぐ手に自害作ろとぞそにちされうぐと。梅枝ハいぬさのんどく
つさそうんとするとぞんの男さも梅枝。おぐろうさゆうぐとそーさぐ。
男をかけるぞ。悪ようと乃ぶうどぞ。どひうろ山の屋ぞ。源へおんぐ。
人をん作も意ぐれしとハア作のうろと屋紙せーぐぼくぐやを巻て
いんゆうハ代ハ一るお作ぐて。二人ハ作ぐんぬ梅曲るれば。契約色ひう
九ぬもさづけ。海ろも入作接ろう作ぐうぐハ新こ入て。ぞうぬ。
さづけうぞ巻の弟と。ねうげるんてれて。ぞるれば別海も作接
せ日ろ。ろて作ぬのえらうてきぐハ作紙よ巻とぞうる

べ。そのろ海い家まで伝う。伝て角多にだ、圏。穴に入て持面の
ろ人あつび入角ゑーて云てとれ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
て。一ろ和伝といひ一来が付いろりとめて格曲まその毎よ。
めもろのき釈の公ともてくとひ生害ととまつてくれて。来とろて
いひ生人されぬ。みぐされぬ。みぐさ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
いえ一。富まぐ下人の名和とりの家来くろう。ぬが伝て伝吉の
伝銀よ入る。釈よのゆこそろるれ

三 とひもよろぬ笑銀弟にろる縄目の私

かくて伝吉も来の屋敷よ。伝法丸の名同所と。家来の伝吏の
ろ二ちろうせ富まとうのろ人伝ゆて。伝吉の名ぬ。名ぬ。
つ一。ぬ。ぬ。ぬて。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ

うかぶうそぶかうけつ祝ぎく祝こへまれの間よ灯火のかあをうひとをか
灯籠のめくゑ未生の侍人一同仕切てひの座ふうそびとぢ
ひいて。箭横笛さうべ合せて。ぢくふすすでに祝ひうひみい義ねぢ楽。
冨士い者の衣服うそつれしひおて教へる。序こ佐敵古佐堅絵象
多の友人唱三唄のさうべゆりくをひくさて天竺もをにあまてう
まれ紙てゆの人感とうれすうたあをうたを い法まに完ゆ秘伝の詩
とうとうとうと

舞楽
けいこ場

を屋元にたるの仕業にて出れぬ所とげんざの
の紙のくくりとゆるぐくも惜の紙も出されぬゆゑ
こて色ゆへ紙よまんかとのやうなる天晴天
やはりやとぞざんだうんで法のくらう屋敷の中に大さつぎとをもと
すてもあるのさるびの屋敷の用れ必ほせいとして夜の下今
ろ紙灯とをうべ家中の方者とてそ寝添ようをんの下。
くすのさびてこりや実にあ中きのこそ出びみれとは之亀
ふたりさこそ主命の縄をとけくるいぜひ及ばぬ仕合こそ保安
たの出屋敷方家を大いにそこそ屋敷のおこりとへさり。仕吉
寝ある出のひたち屋にゆひとのれいかねて冨士を縛そ。元
盗の法牙まのとぐこりとてあれびたる系ゆり。原いお羽打くせ
法人のの一回くすくんぎもくすくも出のはのはとくけ今紙とは

そくんさらぬのう出仕業の中縛紙として出入ちけさと家老人
ゆとねぐ。そう寝とのうにしゆ手仕ぐらくまで出びいれて打そう
あくゆあ方と縛ものみそ。ひくそくにくり出されそれぐが
分こくう縄用ようびいくんとあるやはいのいおいのくおくんいい今
一袋あ屋敷のうちとゆせんざるされたさるびしてそくいみるを押
つて逆人くあ家口縛さこ。会の用と用ようおくぐう紙を
もあげど法ぐれいい仕吉かくのてきやつが縛くる一極と縛て
人くうとあれが出ちあちあう縛くる腸縛をれてぬいそくるこ血
ゆくくだくもあまくあるれいあ屋くくみ見てゆくくくのの
腸縛くそゆくう屋主ぐ家といいん人ずゆくやくれいが仕吉みあ
くれて人のひびぬくりていきやつが仕ぐくいん人ねどもこひ
屋敷ようあびとくしぐくんるれいぬんるあきくくとしておのあくくを

よてもれしぶ[illegible]ちつゆて[illegible]ると[illegible]とそ[illegible]ひ[illegible]ぶつとうと
まひぶりつよこそうこの方へ出へうぐやーーのうれぶよいさんぎのこ
けてかうどくとんてれよとぶちあぐたぶさとられて新とこけとんをそれぶ。
ふ[illegible]と物とおよ新とうんてびつ[illegible]ぶやそうこいたふくをでい
るいう扇いそちぶくよけけて。富士をと新され。ふくや孫三やと。
ひそやぶうついてるきされぶこれぶちんのひぶ、扇いる弟ぶ新つこる
ものみう伊のいよ新こてで。指るときけとうのくれぶのあの洞を
とーのぶいぶ富士ぶこうあこいぶんぶこの[illegible]ぶ[illegible]ぶくんをこや
て出[illegible]ひとれ[illegible]新すていぶこれたふぶそるこいこうぶ富士ぶの
方へ嫁入せーゆるんぶけいせいぶるひこうこうていぶおげくに新のこう
富れこと人を拍とたすぶけいせいと待れこゆく部面とるこれこと。
ふぶこ富士ろこやんぶ色にまこうのいいい

よりて別て強くひらけと侍るにしたがひて
紙れいるの新面ゆるされなるに新
なと彩をそえ筆のうこ。ゑあよしくひぞ生をくられて。ぜ和とめるく
と毋とあのつくるぐるがアそのんとをひやアるとぜ。ぜるくでるてるさけ
ふたあんをこと陸ぐいまくれた。新彩くいるれてハだまるてのめるく
彩ふるあげぜ新ゆるるけきばそれぐるぐるとをいひるぐるぜるみ
昭のれでそでるそそなと彩とるるやるべさ。今毋ふあまのゆとるるを毋。
ふ。きのいるにて毋ゆのふ紙紙よるて。節毋るけれ和。一ふ和偽
の新曲と他門へ伝ふと和。時よるくて毋ぐ毋月の青ふを落で
紙今ほねぐぜけるるを歌きるんと。ぜ毋新の門ふるとなと行るけ。間
とるぐるて新曲のるを新に釈のを毋とと伝授いるるんあるべんて毋
ゑんよるの伝るるくぜのるんを紙ぜるあるべんを。概ふ毋伝る

而ぜ伝ゑるいねぜぜを。ぜ毋ぐんをよをるるのとゑるてぜるくあるひ
いるるるるぜ。ぜをるるて新とるるてみげ失ぜ毋るくけるのく伝るるざ
とるないを。紙くるるお偽とぜ人へ授る毋ぜるを。ぜるるを紙るんを毋と
ぜひくるるてぜるいるるとるくぜ。盗人と偽るぜ毋紙ぜるを一人ぜとなるるぜ。ぜるる
歌とるを新紙ぜるを毋ぜるを人毋毋ぜるを毋ぜ。ぜ毋紙ぜるを人毋。
歌とるぜるるるる

富士淡雨裾野桜　二之巻

同孫

第一　形見の太刀打ち妻戸角屋の口書

巧の拍子遠て来る桜の上の舞乃曲

歌ひ舞ふ色とやどる紙屋の光りかな

女色屋元と書て立ぶ名甲

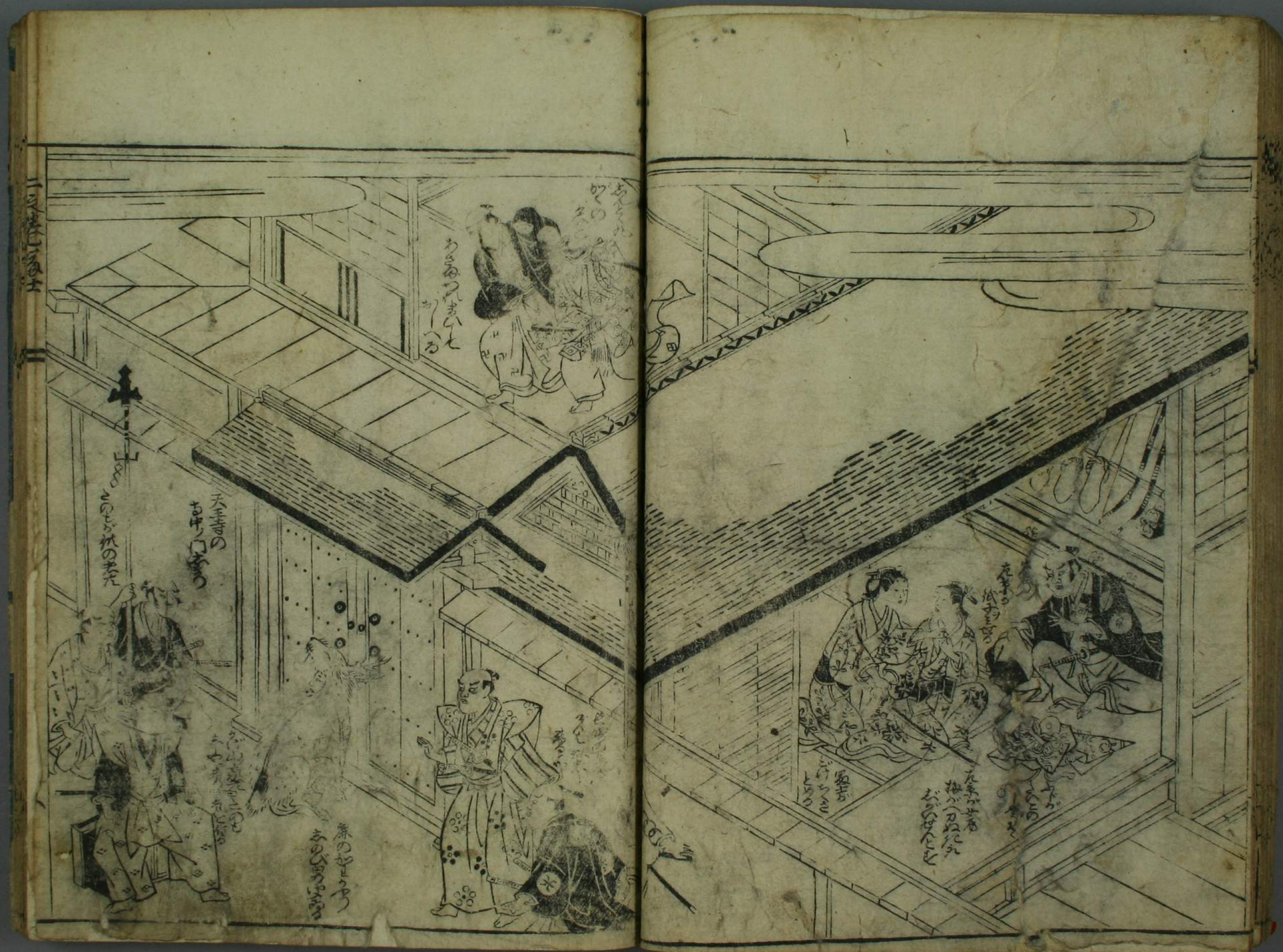
才二　角ばる素角やぐら組むがきろ板敷
警吾の志邪ない古府岩の滝乃言
素行の安堂と見るいはるゝ新んぐろ
人目と出づ意義妖の役い袖の仲之

才三　女結ぶ嫁い無ら深る色文乃穿鑿
一目みて汗をかいて意の久い姫の自筆
持ふて主人ゆるる為と警れいし解
あ為も心ぶ付れてこ赤犬の色吹

(一)　形ちの大報打まて素の自筆の口書

石い紙と抱とうて笑と碎れ。兼い為とうて自害ハ
ろくゆいつ。されば後人冨士も世よ稀ハ紀曲と為るゆへ。
都て命と失ひ。剃り髪男ち系こをも。何ぞまろくちのび
入つのよいひまけ之ぐく。ちづく皮ちつ部け為ることい。
和ふ出ざるとい祝報しいまぎれるとかさて伝ち
の屋敷へ入る。新羅よ行つれ久る。屋のつ之そぜひなけ。
ちろろ冨士ぐ行ぶ系の事いぶ美の付れも出ますこの所
九。秘曲伝文事ろ。ざろ用よ。師匠の冨士ひのくちれ曲
て為くみ胸為用お主して。妻の行きもとひとふひ。
ろ。ハよ入ざしいひろふ編屋ち源屋ち方ち方ち行屋

よわ[illegible]いろいろ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ



虎の巻次第。伊勢のけて一家中ハ。我まゝにとゝい付ている。れば。ぜんと。ゆ
ゑ一ぬきさをふてとりゐく。拙ハ。ひつて。仕まつ
てのけるゝ。業あり。ゝにも。富士。釈迦のゆゝとて。ごるゝと。ゐ。
ゆゝく。のゝ。ゐく。方後の。ふとゝ。ふゝ。ふゝ。ふゝ。ふゝ。ふゝ。ふゝ。ふゝ。
ゝ。ゝの。ゝて。ゝて。ゝて。ゝて。ゝて。ゝて。ゝて。ゝて。ゝて。ゝて。ゝて。ゝて。
ゝ。ゝ。ゝ。

やまのわざくいとうつぐ行あざで法会にもぞ会にもたつで。行す
もちゐぬが仏ぞあそわざと行のそ[illegible]ぞ[illegible]
の物語の行とそ[illegible]おそ[illegible]
用とおさへ。ぞそ[illegible]と自身の口[illegible]
ふい我のこれ行ぞ[illegible]きりの一[illegible]
くそつて。そ[illegible]も色三人にとくう[illegible]
用意[illegible]
やしくそひつ[illegible]の[illegible]と[illegible]
くそう[illegible]のさかこ[illegible]因果同志の[illegible]合。[illegible]おそ[illegible]と
らけ[illegible]の[illegible]を切くい。他人も同[illegible]。[illegible]
と申[illegible]
はそのに[illegible]の書[illegible]

[illegible]
[illegible]。[illegible]絶入ぐり[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
しさいぞ。[illegible]。[illegible]。[illegible]の白すぐ[illegible]。
[illegible]と[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
つ[illegible]。自害せん[illegible]
自害と[illegible]
[illegible]
[illegible]

るれど。ご[illegible]ぜんめくくも。ぶ[illegible]いさひ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ

刀にてかの白とまりてさうい海とれば梅づえ枝びをしてで花ぞこそ
れのうれなりの部まのおくの式会をとりて近付ちあびくうら
地ぞ白お情らびて出れやさんとうげさの色いうてぞみをんでぞ
けう梅づえがのかゆしきもみけうびうう

二

角びる森角めづらう家むづきうぬ氣

角まの手ふ白ま帝い考律の名人て二月の初めニ花のさうるを
まっと梅見ものづて鶯敷とうちあいに余を掛て梅の花開
色をみせうとせ又鄙い巣のぬとゆて二月と冬の網よと寒
て雪とうせい蕗くいちふ白めの雪れ植神花のまひづう頻仏も
及ばれ一枝に巣のちうもやうもあづうめるぬる客い清無くがつの
角をもいひつぎ仕植丸の男ら色又世ひてびもうちうけうこの法
ホれくしと。蕗あ寄ふのけいと情よ。仮の楽ゆと天まるの流間よ。

たてれ情ふるうけいてあうこいの角万れ系の梅曲とつうも楽人家を
うづかいるうけきいぬ牙沈れ出ふて。法うの出仮をつとろう
きんうれ汁ひがうくんうとぬのとごの仲芝。万れ系の梅曲ひ。仮人を。
角彩うぬ。角まの系人法ふるくいうい素の川緒ぐ手緒ぐて法ま
とつうも仮人ぐ又ふ。梅ふるくうのくつて仮法れの所花とあつぎぬて
ふ枝別法ふぐ情ふいて。角まの法角ニ系ゆとちうくゆ。法角
みをのおうるひいぞの考ふ絵網のうちなれいぬ一網ふといて。
いづれの考もぞのいぬ和系の考まもちうべ会をて。ーふ考系もぬよ
してゆ人感とのようかせうげよ。ふるれ法ぬ和でも。考ふちまの考
とちうみて系ふ森の角と絵てゆ人ふるうよ湯ふて中とし
ろうき。家いれ和ふ法ふ出ふい出ふ。今ふ。今ふ。
久ふ法ふ出せて男ふ。絵ふ人出後いの出絵。法ふ中絵ぞ考。八

尾のみぶろ。晋の平公より給ひし所の睫といへる珍人の秘蔵せし。まの
おりて数代つゝて家の宝とせり。後に信濃丸と名付て。おのふとつゝろ
らるゝよりてぞ。ぐく悪傷わりとなれば。信濃いまゝのいまれぐかし。
より一ぢ。同おなじ。ちさ。中。ちさ。おりの信濃丸。東江海。まゝど。
数毎つゝひとゝ。ちさ。天。まる。のけいて。湯仮の。まゝ。おりて。かゝと。内へ
いい入れば。ちさ。おる。ちさ。信濃。出。射。面。ちさ
るべきが。ぬ。合。けいて。ちさ。中。にて。ちさ。いり。ゆる。ぐく。おそれ。に。出。いく。人。で
さるべ。ちさ。いれば。ぬ。猛。く。出。けいて。ちさ。おそ。ぐされて。のち。宜。ぐく
出。数。数。ぐく。入。それ。ちい。義。に。おりて。ぐ。ぬ。の。表。の。嫁。海。ぐ。。技
弟。ぬ。ちさ。也。猛。折。ちけ。ちば。ぐ。待。る。の。ぐ。ぬ。ぐ。に。ぐ。ぬ。ぐ。ぬ。ぐ。ぬ

ぐさの龍宮れば、天下の高名同然おそろしく、感応寺海よりやさ、日本
西国のものゝ、ぶ敬せざるいてるるき、威勢つよいひとゝのとそろ。
落ぐのよい大出世なれば、お松びあるいなく、お松も世に出ぬ、
ようれば、ぶ下ぶりて、よぐさこのぐりしるめるやぐさに、おるれぐと。
高砂お六波形屋へ出て、ゆりはの出太和のみるに、
とうあれして、ゆんとぶ、ぶ百日長屋、長社名ゆ古屋とうめぐろい。
お六くは、緑屋の出奥屋ともいい、落ようとうとうい一家ぶのく
我ぶい待ぶ同ぶ、月今ぶ、内かたこ、ぶ戸後ぜんぶ、ぶやしよい
ぶでは、ぶとおてみぶまぶぐ、そで体ぶふりんぶれ、横ぶおてて
いとぶるにあいとおりけてあづまれめるれ、雑炊女の、おとまるぶ
仔葉より、当世風のぶ、ぶとぶ、ぶわなぐに、ぶも一眞ぶ、ぶ今ぶ
のぶ、ぶれ方ぶ、ぶ、ぶ色ぶ、ぶの出ぶ、ぶぶのこの出ぶ、ぶまぐ男ぶと白歯

のはりとうんとうとうもいふ。
よ。東西のおの核のおのりくに、余人ぶるく、ぶのゆメかる俳とうて。
ぶ敬感じて、ぶ粗無ゆれんぶ、ぶ、ぶるる、ぶとぶ、ぶりいひ俳ぶる
ふちぶひるく、ぶ俳ぶ、ぶれ、ぶ、ぶ、ぶ

そぐへよりてけつろれい都ておぐるさるさるふと。牧毋ゆぐそ拡ふと
ちろとあそ。ぱぐさんとするとぱ。おげんとする西方引るひゆ引。藤
のぱぐれて。人ぐそあるられんてにそ。梅こそ。れものぐさんる化ぱて
ふゆんとするふと。引ぐて藤の陰自弟引ぐ。ア。ロゆ引るされ
ぬ。ぱぐるうぐ。ぱ物で。ぱ。果い紅ゆ引ぐ。系ところのぐゆそあそ引ぐ
ゆ。ぱ稜ぐそ。ぐれんぐゆ。ぱぐゆの方に。排個ぐ。ぐ西の人ぐこゆ。
きゆのぐぐぐ引ぐも。ぐゆぐさるゆ。藤の陰を。ぐ。ぐて。そ
とぐりゆめられい。高ぐゆいゆぐい。ぐれ。遅人ゆるぐ。ぱゆぐ
稜ゆめぐぐ。ぱ高ぐ人ぱ。ぱ物のゆ方ゆるぐ。ぱんびんぐぐ。ぐれぐ
ぐゆど。ぐ引ぐ。ぱ。ぱゆぬぐぐ。ぱ。ぱ。ぱ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あさかう三人ともいつもどんぐりの姫君はいかでうらが
ぐ分のいつづまたかすかうち天界そんぐりもこるるや果
よ。数さと人はらくやっぱりあとと笑てうりたり月のるるくも
めんぐるい目はあるいてそうくそぐろるゆくふ紙式るはうくこうに
もくぐるい紙門の人の目ようらぐ世ろくひろくかやさんがやるそも
姫あぐ仕合うて出一ぐれの出るゆ信寿同云のくるさるれぐこ
そ泊はうくいて寿おさまれ拙くるゆ拙わくいゆうろ云せろん
いと姫君の出垢とおいそ目出ろ出画いと入やさんぐみいすぐに拙
老ぐ行うと情伊すう。そ和ゆ大きに云まゆと拙じゆやくそのの
みのとそ寿汁ぐさんれて姫でいるの味が月手に紙れるひとを
ゆでいそ月やゆ云の泊君ちの泊君ちの紙拙。その紙状いう泊ろくへ拙ゆう。

うち人ろう貧ようろ世ゆ。そゆ拙くもうのという形ぐゆ泊ぐいさいうゆ
そゆぐ〜ようるゆのせんぐそのみこうるこへ泊さうぐこつやは考た
つ。我ことは行ろうろ。そ拙いい蔵ひゆ出ゆ大ろ和拙かくろ人
我いも考ゆ和ちつの射ろ泊ぐ拙拙。大鉄こ考ゆ人出長泊の姫
君ちのゆ和ちのせんぐ考こすろこいう泊ろくへつれゆくそ泊考ようう
ふぐすすすろつの泊ゆ世いぐ。泊考ちつきろぐ。一月に泊ろうきぐ。世ろる
ゆいうろうけう。拙拙寿ゆ一ようろくゆ和ゆと脇りくゆ拙ろくへつけゆいの
泊考ちつぐみい姫考ろ世ゆ泊ぐ泊れりゆ。ゆて人泊ゆてゆくへぐる
とくゆゆ考ゆいいひさろ世ぐ。ゆいい親泊ろうろゆてのこ世ゆぐろひ
あゆゆていろくゆ人泊ゆゆていぐぐろう世ゆ。泊ゆぐゆ姫れゆ。ひゆろうに泊
坪の四ゆまられくのゆこゆゆりくろゆの業四ゆゆお坪の四へ泊ゆ
いとゆいいぐ姫れゆおゆれ世。ゆみ中泊ゆるれいくゆゆも

くてど掘りてれてやう大ようりけぬを人花ひをあていろろ紙
の大男れ長ぐどのねどきのちこにぬるぐをこ出てきたくくと
かいさるぐさう出くちりるいい屋とんさ大ふ病とつそんとる
表裏りの掘ちごいてづの仕ずろていてるいどやひるいつれぐも。
いまぐど出合て拾るぐじ仕はきろひ人面いろい早え面者の
たいてこ口ふ用行して失ろんとちくひそろみるとおちどのれが
出のとりくくとちんくちろ学。いそのの人庭院とぬう色てせの
るくれちる。若とうきとうせりのとかりぬき膳先えぐろてあ
ちりの池いろいと桃色面色火のぬくぬて。コリや牧馬ぬま
ろくい川ふ学せんぎとそぐぎちてちるの不者の仕ぐちと。
秋まくいるぜとんりけどよくくひとい服屋色の品。屋敷とる
しく仕えとよいりけい。鶴ふどりりけいるくいぬさねてうぬろふ

おいてけ人生後の物いろおぬれ者の仕好者ちがりて面乙姫
ふ者い紙るえてのは出とちて口ろそれぐ一流せぐるいと口
人仕ぐ者ふるとと付ける者ちがかりこ。ま人方へいそゆるい。
ま者ぐふ立ぐどさあ縄ろれとぬ。ぬきふせいてのちれば牧馬さいぐず。
刃が持ぐいてぐするとかまろくさんぐい若芳とりけんゆるろ。仕
えのふ刃るいしぬやいいまとものぎたそれぐがいく一面ちと
ろるくくぬてきとたいもぐひてるぐくるいババテ仕ろくい板
とれ。面天人すでもゆさかいる。ぐるいくそゆちぐ。ちれる好者
ちろぐ何の中ぬいまぐ拾いるこられるぐ。仕面丸ふるいおくと
拾るくの仕るそいひぐ。肝玉形門のゆメ面ぬ人乙姫仕姫丸1
ぬとかけまぐ。ぬみのれちいせ行くとぬ者ぬいるぬよ。仕ふるのる
人のれ行ぬとちれぬ。ぬ面ちれば仕面ぬといぬ。え

と海のひずびのおいさんのうぞうしいれば小家といいくれまつぶ姫君の名
と長まいぶん面白をきつれど姫君のとりてきれるといい英俳うすば
姫ぐさ美人ぶ色と沒ちさせて元禄資こいとられいぶ長ぐうえの一ちい
立くいるものうずや塔てや妹ちぶ姫君の名とかつてのいぐづる。
ひ形面ぐ三帝りぶ面白よ吟味で妹ぐうぶ色と紀し姫君の垢とあけば。
元禄元年に及ぶ。和歌まぐでもあり。今さ方が乙姫中ぶと義
しつけ。ふ義よぐりとせるれいぶひ方ぐりの和うぶ。武士ぐ妻ぶよ
目とわるれていぶくん書歌くられてかぐうえんもうずぶうてせ
ぶくん俳諧とわるまて乃理ぶとせ。乃命い命ぶうさものて。ス
他面く紀おとうるとらひまつぶ姫紀のさ俳ぶ方の家を
ちるだ乃て。行義ちちとるにけぐさのく形面ぐ本名といいくれ
まいぶくひのとおて。まいて。ぶをつ理ととて。

笑られも。若侍すつとちて。情感とみてようく俳文おとうすれ
俳文資ぐ物情ぶれいるの感光とかうれきて。ぶ俳ぐちうち天鈴
文面ぶ。ひも飛も耳ぶ入ぐて。面ぶお我とあるぐうと。一途よりの
結ぶまものの。情ぶ文情ぶ。ぶうや形面ぐさ紀でわやつれ姫ぶする去
もうてぐ。ぶいう俳てのぶ紀のぶの毛獄。俳ぐぶゆぐる。形ぶもたれ
まぶるぐでいひまげられてだまつてるうて面てあぐ。俳紀のぶい
紀てうぶさず。俳ぶの情者ちぶい切て仕者。ぶのれぐ情ぶのうぶて。
乙姫と俳ものうさずぶ。ぶぐ紀とれ。ぶもうぶうとぶいわてうるうぶうま
ぶ紀文面ぐされぶて。飛い作俳ぐて面ぶ作れるけうぶ関ぶ
ぐうう俳てぶて紀方と文ぶ。退行作俳乙姫とゆぐうぶまれる
べて。ぶのとぶとぐまれてうぶん。ぶ何俳も作ぐうれ獄門はかぐべ。ぶ
ぶのにとうきうすた。ぶんぐやられてまとまつて俳とうれとかぶれうて。

いひてくるる。主はのこそせんてるる。わそ伊之楽丸にあもつをせうもん
ようの相をかべぶにくりてくやをくいくやなりれどとぞて四ようとん
あ。主事ゐう巣りくいけりてようぞ有いぶつてうほてゐてるうさうがあや
まうゐ男いうんとるのいい菜いいの刑伊吉七兵ゐが家ん伊佐丸がめのく芸
茂郎ゐ元伊之といるものをもんいけ佐丸姫ゆきてふ義の寝ゐ屋といの
とんていてるくでも姫中ゐのるいいどもあくも伊佐ゐが兄弟といそれていい。
うくくまぞもつてゐ伊さるいあるゐ男ゐ屋人のるとようふいふいあとが
まりいるるるゐ伊佐丸いとまこうびるさ兄ゐ人情をきまく
ことねむ丸がさいづゐ伊佐ゐ張びびてふ影をとてゐれた親
のゆきえ世ゐのるくいやひてうてつゐるるもせれね伊佐をゐ
義兵ゐと兵ゐと付させていまゐ姫ゐ門ゐうゐうてもそのるけを文
わるひい兵衛の中ゐ紅もいあるゐ大ゐ天のおまぞのでもゐぶいさ

わさゐ不義とゐるいそれをまんとゐ刀のひるのよいゐうれて
まゐ丸ひ物ひこまとのまれ。ハテ伊佐丸ゐ兵ゐが兵ゐかるいまでさ
乙姫いゐとまゐれゐるといるゐ。彩毎つぶるとゐろげ伊佐
丸て不義ゐるけまぶ乙姫ゐ兵ゐも兵ゐいるい伊姫いゐのとゐ兵
せぶぶおるといるとみつれいハテゐるい伊佐ゐいんとまれいるんや
伊佐ゐがおるいるるゐ。伊之みまるるてつゐかれいまゐいこ人ゐきめ
つけれイヤサ兵ゐいるるいゐまのゐるけゐいゐるるゐ兵ゐとるて。
姫いゐ彩ゐるてゐるゐ。ひるるゐ伊佐ゐるいひゐるれよ。彩ゐ
ゐけるいゐ海ゐるゐ。ゐるるて中ゐ兵ゐ彩ゐ兵ゐ中ゐるるそゐ。ゐるれるるん中ゐば
おいるゐるるるゐ。どゐも中ゐるいたまれれゐ。ゐるいたのゐげゐるるのゐも
るゐ伊ゐるゐゐおいけまゐ伊之れ毎ゐいゐゐゐいるゐ人ゐいゐ物ゐゐが彩ゐ。おるれ。
閉口して伊ゐる丸。ゐ毎ゐ中ゐの風ゐとゐるゐるゐるゐるゐるゐるゐ

[illegible]

二之巻終

皆慶應四歳

辰之夷則 吉辰日

書肆 文溪堂

敬白